

「Evidence-Based Rehabilitation Nursing」

聖マリア学院大学大学院 松尾 ミヨ子

現在の看護職の総数は約160万人で、うち100万人が病院と診療所勤務である。75歳以上が総人口の18%になる2025年問題に向け、200万人の看護師の需要が見込まれている。1992年、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」により、看護系学部と定員は増え続け、看護系大学の数は2016年4月時点で254にのぼる。1990年当時の11に比べ、25年で20倍以上増加した。総大学数750のうち、3大学の一つは看護学科を持っていることになる。2014年には18大学に看護学科が新設、工業大学なども看護学科を設置するという新設ラッシュとなった。急激な大学数の増加は、教員不足、実習病院の負担、募集定員割れなど、将来的には問題の深刻化が懸念される。一方出口を見ると、2014年には看護師国家試験合格者の30%が大卒者で、大病院など大型病院では、大卒看護師の割合が増している。認定看護師、専門看護師など高度実践を担う新たな看護職も登場し、卒後研修を積んだ認定看護師15535名、大学院修了の専門看護師1542名が活躍している。2014年に欧州9カ国の42万人以上の患者データから、病院に大卒またはそれ以上の学歴の看護師の割合が多いほど、急性期患者の入院後30日以内の死亡率が低い、との報告が出た。保健医療福祉の現場での看護師への期待は、質の高いケアの探求と実践だと思われる。Evidence-based Practice（エビデンスに基づく実践）の必要性が増している。大学や大学院の増加とともに、看護師による研究は増え、学会や学術雑誌には多くの発表がある。しかし、研究成果の実践活用、応用はまだ進んでいない。海外の報告では、行われる看護ケアの実状は、エビデンスのないものが3割を占めていたという報告もある。看護師の数の増加、高学歴化はエビデンスを伴う実践によって、その必要性が説明できるようになりたい。

講師略歴

1972年	九州大学医学部附属看護学校卒業
1992年	千葉大学大学院看護学研究科修了（修士課程）
1998年	米国イリノイ大学大学院看護学研究科修了（博士課程）
1972～1986年	九州大学医学部附属病院勤務（看護師）
1986～1990年	聖マリア学院短期大学勤務（助手、講師）
1998～2005年	鳥取大学医学部保健学科看護学専攻（教授）
2005年～2009年	大阪府立大学看護学部/大学院（教授）
2009年～2017年3月	聖マリア学院大学看護学部/大学院（教授）